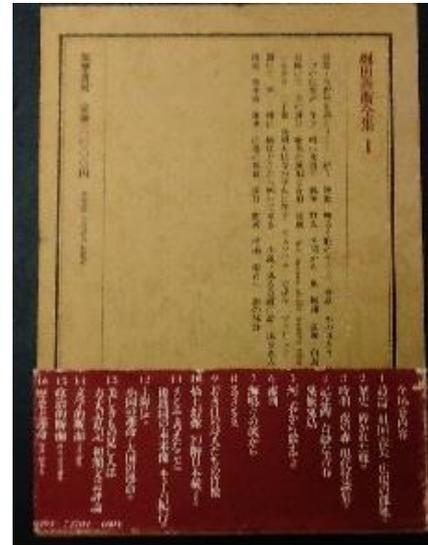
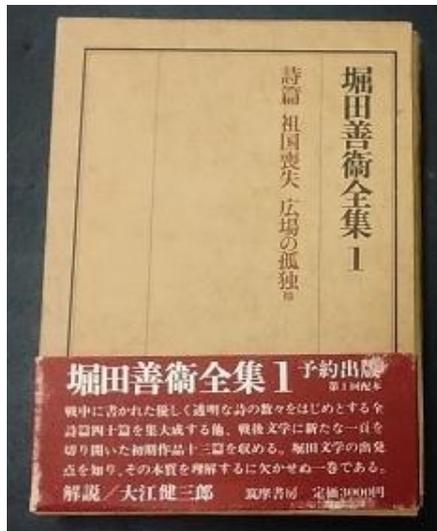

essais こころみ 2020年1月

(再掲) 2019年4月1日(月) 朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集(筑摩書房 1974年6月20日発刊開始)



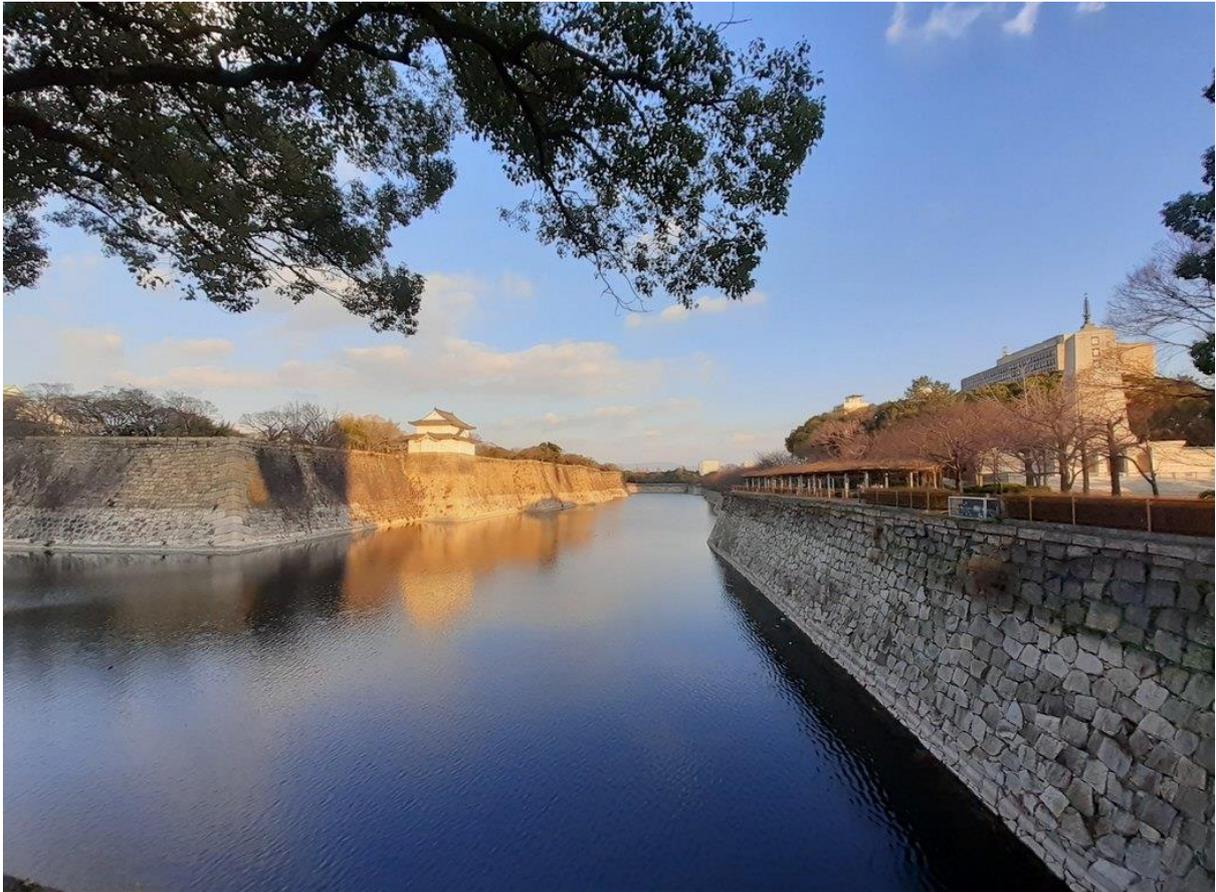
2020年1月2日（木）大阪城公園 蠟梅をもとめて

元日は晴れたり曇ったり。二日目は安定した晴れ。大阪城公園の梅林の蠟梅は咲き始めているはず、と思い久しぶりに散歩









2020年1月3日（金） 晴天

元日は少し雲が多かったが、昨日今日、よく晴れている。昨日からデパートは開いているし、梅田界限はすっかり、いつもの日常。

— 2020年幕開け —

ヒトの考えることは本当にわからないものだとつくづく感じた、あの逃亡劇。ご当人は不当な弾圧から助け出された正義の人と考えているのかもしれない。もし年末年始でなかったから、新聞、テレビでもっともっと大きく、長く扱った。いやはや、とにかく仕事としてはプロフェッショナル。

そんなこんな幕開けの2020年、元旦まずは例年お墓参りをする。きょうだいそろってお寺へいく。まずは本堂にお参りをする。中央の大きな仏像を初めに、計5つの祭壇にお線香をあげ、礼をする。

先にお参りしている人がいるので、うしろで待つ。いつもはすぐに順番がくるが、今年はそうでなかった。70才手前ぐらいのその男性の頭がなかなか上がらない。

何分ぐらいだったろう、たぶん5分は深く首を垂れていた。中背で体つきは華奢。頭があがり、次の祭壇へ向かう動作、しぐさが静かで緩やか、いや、厳かといっていい。

信心深い…。わたしだけでなく、きょうだい皆がそう感じた。元旦最初にいい光景に会った。よい幕開けである。

2020年1月10日（金） 晴⇄曇

1月も10日。今日は十日戎、毎年同じ神社に古い笹をお返しして、新しい笹を買い、笹に付いている券で籤引きをする。『はい、4等です』。ハズレがないので、つまり最下位。小さなお菓子をもらった。

— 『時間は存在しない』 —

新聞で広告を見た時は、買うつもりはなかった。気分転換に書店をぶらっとして、つい手がのび、目次などをみていたら、そのままレジへ。著者はイタリアの物理学者、『時間は存在しない』。

2年前に読んだ京大の先生の『時間とはなんだろう』をさらに、物語り的に書いている感じがして、なかなかおもしろい。読むうちに、過去も未来も自分の身のまわりに抱えながら現在を生きているような感覚になってきた。

9年前に『宇宙は本当にひとつなのか』を読んだ時には、過去から現在が宇宙空間の透明の折り畳みカーテンのようなものに刻み込まれているんじゃないかと考えたりした。

「堀田善衛」によるとギリシャ人は過去は自分の前方に、未来は見えないから自分の背後にあると考えたらしいが、前後、左右、上下、立体的に自分の人生の物語が漂い、それぞれに行き来していると考えられるのもいい。

するとなんとなくじわっと冒険心のようなものが湧いてくる。これは『アフォーダンス』にも通ずるのではないか。さらに、じわっと、自分をいとおしくさえ思えてくる。

過去も現在も未来も、その時々環境、人々を係りながら、自分が創っている、創っていく、試行錯誤、悪戦苦闘を重ねながら。新しい何か試みをしようとする時、すぐ傍の過去がいい助けになったりして

2020年1月17日（金） 曇り

あの震災から25年。バブル崩壊後の混沌と激動が生活者にリアルに迫りくる、その象徴のように思えた、後になって。1995年は日本におけるインターネット元年でもあった。

ー ちょっと先を想像する間 ー

人と話せば話すほど、細かな点で違いが膨大にあるのだと実感する。わかりやすいのは生活習慣だが、五感の度合いなどは言葉で説明し合っても、感覚的には知り得ない。同じ人を見て、わたしと友人がとらえたものの違いがどういうものだろう。

さらにこのところ「想像」がクローズアップ。自分自身にとって大事な予定や仕事は、前もって流れや状況の変化、場面を想像して、細かな工夫を考えたりして、まずまずの出来、ということになる。『神は細部に宿る』という。

今の状況からちょっと先を想像して、よりよく事が運ぶように、何か手を打つ。これが意外に出来ていない。ちょっとした作業、ほんの連絡事項、そんな小さな仕事がけっこう要になるのに、やりすごしている。何とももったいない。

日常業務に追われるばかりでは、先を想像する心も「間」も生れない。仕事に充てられる時間を一日12時間として、その10%は余裕時間として確保しておきたいもの

2020年1月27日（火） 晴⇔曇

先週25日は旧暦の元日、新旧ともに年が明けた。ちょうど一週後は立春。今年は暖冬で、待ってました！という感じはないが、ようやく「迎春」がぴったりになる。春本番になるまでは空気がキリッとして、いまのこの早春を春として愉しみたい。

ー 『そんな簡単にわかってたまりますかいな』 ー

自分の目線、認識、感覚といったものは自分では当たり前すぎて、漠然と他者も同じようなものにとらえがち。そのうち全然違うとわかって、落胆して、そのうち気をとりのおす。何せ同じはずはないわけだから。

人みな相当に異質な存在。頭だけではなく、心身ともにそう思えるようになったのはよかった。自分の独自性もみえてくるし、自分以外の人の、その人ならではの諸々があるはずと目をこらすことができるから。

先日相談を受けた人は独立して2年、なかなか思うように事が運んでいないという。聞くところかなり独自の視点があり、これまでの学びも深い。アート系の業ではないが、アートな感じがした。

こんないいものだから、みんなわかってくれて当たり前、という意識がどこかにあるのかもしれない、自分ではそう気づいていなくても。『そんな簡単にわかってたまりますかいな』。いつか知人がはなした一言。

そう、そんな簡単にわかっては値打ちもないのではないか、なんでもあるこの時代に。わかる人は多くを語らなくてもわかる。でもわからない人は言葉を尽くしても、なかなか通じない。

独自であればあるほど、受容する人は限られる。そんなこんなことを話し、今後のアプローチを助言し、叱咤激励して見送った。『今日は本当にたのしかったです…！』とは、それは何より。実践を期待。